

国内実態調査報告書

テーマ : スノーリゾートの「これまで」と「これから」～津南町を事例に～
ゼミ名 : 関根 正敏 ゼミ
調査日 : 2024年9月9日(月)～9月11日(水)
調査先 : 新潟県中魚沼郡津南町
授業科目名 : 演習Ⅰ・演習Ⅲ
参加学生数 : 10名(3年生)、9名(4年生)

調査の趣旨(目的)

新潟県は、県全体で多くのスキー場を有し、冬季の地域経済をスキー場に支えられている。しかし、近年のスキー最盛期からの利用客の減少や、地球温暖化による雪不足が問題となり、冬季以外の旅行者の誘致に大きな期待が寄せられている。こうした課題について、特にスキー場に近接する津南町を事例に理解を深め、また、ホテルの観光振興担当者との懇談を通じて、スキー場の夏季期間の活用について考察することを目的とする。

調査結果

調査に訪れたホテル“ニュー・グリンピア津南”の代表取締役社長である樋口様に「スノーリゾートの過去・現在・未来」というテーマでご講演をいただき、その後、学生たちと懇談の機会を設けさせていただいた。その結果、スノーリゾートが抱える様々な問題について知見を深めることができた。特に地方に位置するがゆえの従業員不足や、施設の老朽化などの問題は全国のスノーリゾートが抱える問題について知ることができ、今回の調査としての大きな収穫となった。また、地方のスノーリゾートがそうした課題を抱える中で、信越地方のスキー場では夏季の観光誘客を目指した試みがいくつかの事例で実施されてきた。そこでは、植物園・キャンプ場・イベント会場などを設置するなど、さまざまな観点から夏季の誘客促進を目指してきたが、いずれも現状抱えている問題を打破するほどの大きな成果を得られていないことを知ることができた。こうした調査結果を踏まえ、夏季期間の集客率を上げるための具体的な施策案について学生たちが議論し、ホテルへの提案を行った。

